

みみタロウ

日本語版 79号 2009年12月

信頼は日々の積み重ね

みみタロウは今回、湖北の美しい町、高月町にある光商店を訪ね、ここで外壁工事業者として働くブラジル人夫妻のルイス カロス ブンさん、アリッセ マリア カオル ナカムラさんと森社長にお話をうかがいました。



森社長 カロスさんとカオルさんは家の外壁工事をする当社専属の職人さんです。13年前、ここから技術を身につけ、独立した職人さんとして仕事をされています。

言葉と習慣が異なる中、ここまで来るのには並々ならない努力と苦勞をされたと思います。作業の説明はローマ字で記入するなど工夫をしていますが、仕事の微妙な出来具合など、言葉で表すことが難しく、感じ取ってもらうしかなかったこともありました。今では専門用語も含め、問題もなく仕事をこなしておられます。彼らの丁寧な仕事ぶりは施工主さんにとっても喜ばれており、県外からも指名で注文が来るほどです。

職人にとって無論技術が最も大切。ただ、家を作るために日本人のお宅で作業するので、マナーも大切にしなければなりません。外国人の職人さんが家に入ってくることは、ほとんどの人にとって初めての経験。安心して工事をお任せいただくには、職人には日本人、外国人に関係なく、時間を守る、ゴミをきれいにかたづけ、大きな声で挨拶する、車はきちんと止めるといったマナーが欠かせません。残念ながら日本では、まだ外国人に対する偏見が残っているところもあります。職人が技術のせいではなく他の理不尽な理由で「外国人は結構です」と言われたらもったいないですね。だから彼らには、細かな部分での心遣いを大切にしてほしいといつも話しているんですよ。工事現場では、夫婦間でもポルトガル語で話していたら、理解できない日本人の耳には悪口に聞こえることもあるので、日本語で話してくれているんですよ。

まだまだ日本社会では、一人の外国人が悪いことをすると、外国人はみんなそのように思われることが少なくありません。カルロスさんとカオルさんには、そんな風潮を吹っ飛ばして、真面目に頑張っている外国人の良い印象をどんどん広めていってほしいと思っていますんですよ。

カルロスさんとカオルさん



光商店の外壁作業部門なら

「いつも二人で働ける」と思ったのが、私たちがこの仕事を選んだ理由です。慣れないうちは色々

苦勞もありましたが、この仕事が大好きで、続けてきて本当に良かったと思っています。独立して仕事をしているので、職場の人間関係にも気を遣わず気楽である反面、仕事の責任は全て背負わなければならない厳しい面もあります。工期には必ず間に合わせ、うまくできあがるまで責任を持ちます。暑さ寒さもあり、作業には丁寧さと根気が必要で、好きでないと出来る仕事ではありません。作業は一軒につき5日ほどですが、お客さんにとって家は一生もの。お話を伺いながら満足していただけるよう頑張っています。外国人の職人が来て最初は遠目に見守っているお客さんも、信頼していただくと打ち解けてくれます。私たち、いつも笑顔で仕事をするのでとても評判がいいんですよ。

注文される家は色々。次々新しい技術も必要です。その度に工夫しながら経験を積むことで、良い仕事につながっていくと思います。今まで手がけた家はもう何百軒。どれも自分たちの大切な作品で、その前を通りかかると、とても嬉しくなるんです。

日本人には遠慮気味な面があり、友達になるのに時間がかかりますが、一旦仲良くなると、真の友達になりますよ。私たちにはそんな友達が何人もいる他、ご近所にも恵まれています。ここ高月はまだまだ外国人が珍しい所。今から思えば、外国人の私たちが住み始め、ご近所さんは少々心配されたのでは。でも日々挨拶を交わしているうちに、畑で取れた野菜をいただいたり、お返しにジュースのお肉を持って行ったりと、とても良いお付き合いをしているんですよ。

良い仕事、良き人々に囲まれ、いつまでもここで暮らしていければと願っています。